



与野本町小だより

～かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子～
ニコニコ・しっかり・美しく（本町の心）

1 1 月 号

令和7年10月31日

さいたま市立与野本町小学校

心ゆたかな子

～本との出会いづくりのすすめ～

校 長 小 野 圭 司

私は2週間ほど前、福岡へ出張した際に、聖家族贖罪聖堂（サグラダ・ファミリア）の彫刻家である外尾悦郎（そとお えつろう）氏の講演を聴く機会に恵まれました。外尾氏は、アントニ・ガウディが設計したサグラダ・ファミリアの彫刻を数多く手がけ、完成に向けて尽力されている方です。

正直なところ、私はスペインに行ったこともなく、ガウディにもそれほど関心がなかったため、講演前はあまり期待していませんでした。しかし、外尾氏の生き様やガウディとの向き合い方に触れることで、ガウディやサグラダ・ファミリアに強く興味をもつようになりました。講演後には、外尾氏の著書『ガウディの伝言』（光文社）を購入し、現在読み進めているところです。

さて、先月の「たくましい子」に続き、今月は本校の学校教育目標の一つである「心ゆたかな子」について取り上げます。本校では、読書を通じて心を育むことを目的に、「読書賞」や「読書王」の取り組みを進めています。これらの賞状には、「これからも本をたくさん読んで、心を豊かにしてください。」という言葉が添えています。10月末現在では、「読書賞」表彰者が82名、「読書王」表彰者が29名となっています。

私自身も、外尾氏の講演をきっかけに本と出会い、読書の楽しさを再認識しました。本日のお話朝会では、『どんなかんじかなあ』（中山千夏：文、和田誠：絵）の読み聞かせを行いました。子どもたちは、きっと何かを感じ取ってくれたのではないかと期待しています。本との出会いは、読み聞かせを通じて生まれることもあれば、ブックタウンで偶然見かけた表紙に惹かれて手に取ることもあります。また、友達から紹介された本がきっかけになることもあるでしょう。

ご家庭におかれましても、例えば本屋に一緒に出かけてお子さんが気に入った本を選ばせたり、スポーツに興味がある場合には関連する本と一緒に探したり、テレビで興味をもった内容について本で調べるよう促したりと、ぜひ本との出会いづくりを意識していただければ幸いです。

最後になりましたが、10月28日（火）の運動会には、多くの皆様にご参会いただき、誠にありがとうございました。あいにくの天候不良により、当初の予定日の25日（土）はダンスや表現のみの公開となりましたが、この日も温かな声援を子どもたちに送っていただき、重ねて感謝を申し上げます。子どもたちは運動会に向け、プチ失敗を経験しながらも、より良い動きを目指して努力を重ね、「たくましい子」としての姿をしっかりと見せてくれたのではないかと思います。